

海沿いの街。遠くに海の波が光っている。

神社の境内。鯨の骨の鳥居がある。(この鳥居は後の回想シーンで初めて出てくる。この出だしではまだ何も無い白い空間)

中学生の生子が佇んでいる。

生子のいとこのサワ(佐和子の中学生時代、制服を着ている)が、息せき切って走ってくる。身振り手振りで、今見てきたものの状態を生子に示しているが、興奮しすぎていて理解できない? サワはメガネを掛けている。
生子、思いついたことを尋ねてみるが当たらない。

生子 何なのさ。何よ、サワちゃん。

サワ せいちゃん、凄いや、凄いや、早く、早く。

生子 どうしたの?

サワ 早く行かないと、行っちゃうよ。

生子 何が?

サワ いいから早く。

生子 ここで母ちゃん、待ってなきゃなんないんだよ。

サワ

見たくないの？

生子

何を。

サワ

鯨だよ。

生子

ええ？

サワ

初めて見た……あんな大きな鯨……市民会館よりでつかい鯨が腹出してあたしにき、せいちゃん連れて来いって言うんだ。

行きかけた生子、戻ってくる。

生子

なんだ……嘘つき。

サワ

ええ？

生子

鯨がそんなこと言うもんか、嘘つき。

サワ

ばか。違うよ。そんな風に言ってる気がしたんだよ。「早く生子を連れて来てオラを生子さ見せる。町の鯨博士生子様にこのオラの雄姿を早く見せる」つてよ。いいから早く。

生子

マッコウクジラか、ザトウクジラか？ 市民会館ほどの、そんなにでつかい鯨なら、シロナガスだろ？ こんな日本の東北地方にシロナガスクジラが来るわけない。そんな遠い外国の鯨が、こんなところに来るはずがないよ。サワちや

ん、それは蜃気楼だな。

サワ 鯨の背に乗った子供たちは？ ピンカラ島の難民の子供たちじゃないのかい？

生子 サワちゃんはあたしより年上なのに、いつも子供じみたことばかり言うから参ったなあ……早く大人になってくれよ。

サワ 早く行かないと鯨が行っちゃうよ。

二人、手を繋いで走って行こうとする。

と、生子の母、鶴子が農作業の姿で息せき切ってくる。

白い背景の中に、色鮮やかな棚田のミニチュア出る。色紙で作った、工作のようなミニチュアである。

鶴子 生子！

生子 あ、母ちゃん。

鶴子 どさいぐんだ（どこへ行くんだ）。

生子 鯨見に。

鶴子 一つの時代の話してるのだ。

生子 今だよ。今、剣山岬でサワちゃんが見たんだよ。

鶴子

サワ。いい加減なこと言わねでける。生子は、女手一つで私が育てた大事な娘だ。あんたみだいな妄想狂に付き合わせでらんねのだ。

生子

妄想狂？ サワちゃんはあたしより成績も良いし、体育も上手で、クラスのみんなから、花田のキュリー夫人で言われてるんだぞ。

鶴子

なしてキュリー夫人が急に出てくるんだぞ。

生子

中学生の私が知っている範囲で女の偉人と言えば、キュリー夫人とボヴァリー夫人だけだからな……偉人天才は、後はみんな男だべ？ エツチな夫人より科学者の方がなんとなく聞こえがいいべず。

鶴子

お前は頭悪すぎつぞ。ボヴァリー夫人はな、欲望のままに流されて果ては自殺してしまふ、小説の主人公だ。実在すね人物だぞ。ほして、キュリー夫人もボヴァリー夫人もマリア、エマっていうちゃんとした名前があるのに、旦那の名前では呼ばれてる。マクベス夫人と一緒に。マクベス夫人なの、今もって誰も名前しあねんだぞ。昔は今よりもっと男社会だから、女はみんな名前があつても無いのも同然。誰その奥さんとか誰それのお母さんとか呼ばれなかったんだぞ。偉人もいっぱいいだんだつけべんと、名前が記録されなかったのつたな。昔から家事と育児で、研究したり作曲したり、絵描いだりさんねつけのつたな。

生子

さすが、花田村の未亡人会会長、フェミニズムのはしりだな。

サワ

ほだなごどゆてるまに鯨がいつつまうべ。

鶴子

この気違い。あっちゃんげ（あっちへ行きなさい）。おめえは小学校の時に人事不省さ陥って、二年遅れて入りなおしたんだ。その時の秘密をおぼちゃんがしゃねど思てんのが？

サワ

………

鶴子

あの時からおめは、二つの世界ば行き来してる。現実と妄想の二つの世界ばな。私はこういう性格だからはつきり言うが、そんな病気と今後も戦っていくのはおめ一人。オラの生子を連れて行ってはなんね。一人で行け。

サワ

鯨はほんとにいるんだよ。剣山岬から鷹の手前に渦巻く波のあなたに光る青い背。市民会館の屋根みたいに光る青い皮膚。一度大きく潜ったかと思うと、突然波しぶきを上げて私のすぐそばで躍るようにジャンプした。その白い腹の美しさと言ったら……ああ、今もまだ鳥肌が立っている。綺麗な白い腹を見せて私を誘うようにジャンプしたその背には、見たこともないような異国の子供たちが乗っていた。

生子

どんな子供たち？

鶴子

鯨に子供が乗れる訳ねえべ？ ほだなごどする前に鯨にのみこまれてしまうのだ。おめがちつちえ頃私が読み聴かせた「ピノキオ」覚えてねのが？

生子

でもピノキオは鯨に飲み込まれても生きてたぞ。

鶴子

ばが。ピノキオは人間でね。玩具職人のゼペットじいさんが作った人形なのだ。人形は焼かれねえ限り、絶対に死なないのだ。

生子

人間だって焼かれたら死ぬぞ。

鶴子

ばが。人間が生きたまま焼かれたらそら死ぬさ。しかし、普通一般的にはな、死んでから焼かれるの。魔女裁判や、長崎の雲仙地獄で処刑されたパウロ内堀作右衛門たちキリシタンだづのこと言ってるんだべ？

生子

……

鶴子

私が言いたいの……人形は死んでから焼かれることはないということ。突然生かされて、突然焼かれるということ。成長がないんだね。突然子供になって子供のままだに焼かれるのが人形……あれ？ 母ちゃん何言おうとしてたっけ？ やっぱりサワの妖術に取り込まれてしまったかな？

生子

今のうちに早く岬に行こう。

サワ

うん。

鶴子

あ、裏の家のずんつあが危篤だぞ、生子に会いたがってる。早く、斎藤医院さ来い。もう最後だぞ。

生子

なしてそれを先にやねの？

鶴子

ずんつあが早く良くなるように、神社さま来たついでにお参りしたら、農協の新さんが自転車で教えにきてくれたんだ。おめど、ここで待ち合わせしたつ

サワ
生子

けべ？

せいちゃん、鯨……

われな、サワちゃん、ずんつあ危篤ださげ。

ストップモーションの鶴子、記憶の彼方に消える。

サワ、取り残される。

生子、戻って後方のサワを見ながら下手手前に佇む。

ストップモーションのサワ、思い出の写真のように立ち、白衣の女（老人の佐和子）に袖に追いやられる。

気が付くと、手前に年老いた生子が椅子に座っている。

そしてそのさらに下手前に、後ろ向きにスーツ姿の中年の男、神林公男が座っている。公男は時々うなずいたりしている。

ベッド一つ現る。

看護師姿の吉川涼子と、藍色の衣裳を着た水島貴子が、やけに大きな声で会話している。白いベッドの上には老女、田中静江が横たわっている。

上手前に藍色の衣裳の上に白衣を着た藍原佐和子が立っている。

涼子

ダメ、撮らないで、写真は勘弁して下さい。シャッター音がダメなのよ。ドキリとするでしょ？ ふいにカシャリは。病人が沢山いるんですから、瀕死の方もおられるのよ。もう少し待って下さい。医師の回診の後に、少し患者さんが落ち着かれてからにして下さいな。(と、患者と思われる老人田中の熱を測り) 待って下さい。先生、田中さんの熱が下がりません。昨日から、八度五分から少しも下がりませんの。マラリアか、チフスカデング熱、もしかすると黄熱病も視野に入れないと……

田中

黄熱病なんてあなたここは南米なの？ ここに野口英世がいるって言うんですか？

貴子

いないわよ。野口英世は。あの人は福島の人なんだから。

田中

じゃああたしたち助からないじゃないの、ここが、野口英世もいない、福島でもない場所であるなら。

貴子

ここは、エストニアでもラトビアでもない。ましてヤリトニアでもありやしない。

涼子

今熱病の話してたのよ。田中さんが熱病にかかった……緊急事態発生よ。

藍原

そんなことあり得ない。

涼子

フィリピンから感染患者が密航してきたのかもしれない……

貴子

この街の港に船が着くまでにはまだまだ時間がかかる。ダニエル神父もそう言

つておられたではありませんか。待つんです。じつと。息を殺して。船が来るまで。

涼子

先生、私は田中静江さんのお熱のことで……。本人は尿瓶を使うのをひどくいやがるんです。じつとして欲しいのですが、三十分に十五回はお手洗いに行くんです。熱があるのに、おしめも嫌がつて……。先生。どうしたら良いでしょう。先生。

藍原

違います。白衣を着ているからと言って、私は医者ではありませんよ。

涼子

なぜ着ているのです？ それならなぜ白衣を。ここが病院で白衣を着ている人間がいるとするなら、医者でなくてなんなんですか？

藍原

画家です。ここにちよこつと黄色の油絵の具が……

涼子

うんちかと思った。

藍原

はあ？ ……

涼子

気を遣って言わなかったけど、トイレでうんこひっかけたんだと。

藍原

それなら黄色じゃなくて茶色に滲んでるはずでしょ？ しかも臭いが凄いはず。

涼子

私、鼻が悪くて……。高校の時にプールで溺れてからずっと……。一組の清ちゃんに恨めしい。プールの端で、しゅーしていた私を後ろから突き落とされたのよ。プールの反対側にいた伸介にしゅーしておどけていた私を。あの二人ぐるだつ

藍原

涼子

藍原

涼子

藍原

涼子

藍原

たのよ。顔をいきなり水にたたきつけられ、鼻の骨を折る大惨事。私は救急車で運ばれて三か月学校を休んで入院したのよ。退院したら新学期のクラス替えで、清ちゃんも伸介も違うクラスになったばかりか、清ちゃんはハワイに転校していった。お母さんがアメリカ人と結婚することになったからって。私は、陥没した鼻の写真を清ちゃんに送ったら「日本人の鼻はなんて低いんだ。逆にめり込んでいるくらいじゃないか！」だって。骨がめり込んで鼻は詰まるし、息もしづらいし、臭いさえ分からない。たまたま外科医だった伸介のオジサンに手術してもらったら、前より鼻が高くなっちゃった。

早く皆さんのお熱測ったほうが良いですよ。

医者でもない人になんぞ指図されなきゃならないんです。

ここは病院ですらないんですから、誰が指示したっていいんですよ。おばあさんが熱測れって言ってるだけなもの。

おばあさん？ 私は看護師です。看護師でなきゃあ、どうして体温計もって回診しているんです？

好きだからでしょ？ 回診が、看護師の仕事が。

好きだからと言って簡単にできる仕事じゃあないわ、看護師の仕事は。私、血を見るの、嫌い。でも我慢、がまんよ。看護師だから。

病院じゃないって言ってるでしょ？

貴子
藍原

そうよ、ここは病院は病院でも病院船なんだから。
病院船？

と、いきなり、ベッドが上手と下手から数個現れる。ベッドに横たわり唸る患者たち。

涼子

そうよ。ここは病院船。医者はあなた一人、看護師は私一人という小規模ではあるけれど、病院船の中では老舗とっていいのじゃなくて？ 戦後からそうもう七十年も海の上を漂ってる。

貴子

あたしそんな年じゃないわ。

田中

あたしだって。

涼子

あたしだって、そら、そうなんだけど、この船自体は七十年修理しながらだま
しだまし使い続けて。

藍原

船をだましましたし使い続けちゃだめよ。命に関わります。

貴子

そうよね。飛行機だましましたし修理して、なんて聞かないものね。船だって怖
いわよそんなの。

藍原

話しを戻しましょう。

涼子

戻すって？

藍原

ここが病院船なのか？ そうではないのかを論じましょう。

貴子

え？ ここはただの病院だったの？

藍原

じゃなくて。

田中

だから病院船でしょ？ 慰問に来たんだものね、あたしたち。

藍原

慰問？

貴子

でもあたしたちは船が来るのを待っていたはずよ。もう船に乗っていたの？
じゃあダニエル神父はどこにいるのです？

手前に座っていた男が手を上げる。

貴子

なんだ、そこにいた。

田中

なんだ。じゃあ、もうすぐ三時？

貴子

じゃあ少し仮眠を取って、その時を待ちましょうか……

と、老人たちベッドに横になる。

涼子

待って、もう少し、今度は私がお手洗いに行きたくなってしまつて……。先生、
少々お待ちください。

藍原

だから医者じゃないの。全く。

と、準備してきた画材をスタンバイし絵を描き始める。

さっきから神父の前に座っていた老婆が口を開く。神林生子である。

出だしの生子の老いた姿である。

生子

私、どうしたら良いんでしょう……

神父

……

生子

どうしたら良いんですかね……

神父

……

生子

嫌われてんです。

神父

誰に？

生子

家族にですよ。だから誰も来ないんです。こんなところに入れられて、もう三

神父

年経つのに、誰も面会に来てくれないんですよ。嫌われてんですよ。

生子

どうして嫌われてるんですか？

神父

え？

生子

私が変わってるからなんです。

神父

どうして分かるんです？ 変わってるって。

生子

嫁が言うんです。お母さんは変わってるって。毎日毎日言うんです。たまにじやないんですよ。毎日なんです。毎日言うってことはやはり変わってるんですよ私は。だから嫌われて捨てられたんです。どうすればいいでしょう私。

神父

どうすればってどうしたいんです。

生子

息子に会いたいです。

神父

息子さん会いに来てるでしょう？

生子

いいえ。全然。もう三年会ってないんです。ここに来て三年、家族が誰も来てくれない。

と、嫁の美代子が洗濯物を持って来る。テーブルの上に置いて。

美代子

どうします？

生子

は？

美代子

部屋入れときますか？

生子

は？

美代子

棚の三段目入れときますから。

と、一旦消える。

生子
あの人誰？

美代子
またボケた振りしちやつて……

と、出てくる。

美代子
アンパンとプリン、どっちが良いですか？

生子
え？

美代子
どっちが食べたいですか？ 今。

生子
草餅が食べたいよう……

美代子
そんなの山崎県のコンビニで売ってないから。ホントに変わってるよ。

さつきからちらちら見え隠れしていたサングラスの女が紙袋から草餅を出して、テーブルに置こうとしたその時、ボランティアの若い女が草餅をテーブルに置く。かじりつく生子。

美代子
ま。

サングラスの女、消える。

美代子

誰あの人。

お茶のコーナーから麦茶を持って来て神父の隣に座り飲んでいる。

女、また来る。ボランティアの若い女河野真由美が小声で、声を掛ける。

真由美

あなた……神林絵夢さんじゃないですか？ ……一時間ドラマで刑事役や
てる。

女

違います。

と、サングラスの女、小声で言うと、陰に隠れる。

美代子

………草餅、すみません。

真由美

母に持ってきたんです。沢山ありますから、どうぞ。うちの母も草餅が好物で。
(と、三個さらに出して二人に勧める。そして自分も食べる)

介護士の本村良子、出て来る。

良子

部屋で召し上がって下さい。

真由美

え？

良子

他の方もおられますので。糖尿病の方もいますのでね。ここで食べられると困るんです。あなたご家族の方じゃないですよ？ ご家族の方以外に差し入れすることは禁じられています。

真由美

あのこれ皆さんにと思って、母がお世話になってますから。

良子

職員にも差し入れは禁止です。お持ち帰りください。

真由美

……

生子

娘です。これ娘ですから。娘が持ってきてくれましたの。だから私食べますの。

草餅。

女

……

良子

へえ……

美代子

探してきますよ、今度……草餅。

良子、消える。美代子、消える。

生子

ごめんなさいね。とつさに嘘言っちゃって。もう息子が三年間一度も来てくれないもんで、あたしもどうしたら良いのか分からなくてねえ。

真由美

ひどいですね。でも息子さんもお忙しいんじゃないですか？ 息子さんどこにおられるんですか？

生子

東京。

真由美

何やってるんですか？ 息子さんは。

神父

教員です。

真由美

何で知ってるんです？

神父

息子ですから私。

真由美

は？

神父

私が息子なんですよこの人の。

真由美

あなた神父さんでしょ。

神父

ある時は。

真由美

は？

神父

いいんですよ何でも。とにかく私は息子で教員です。

真由美

三年会ってないって。

神父

毎日来てますよ。こうやって仕事終わりに毎日。母さん。

生子

どうしたら良いんだろう、私。神父さんだけですよ、頼りになるのは。この人

が娘じゃないことは知ってますよ。私は娘は産んじやいない。いや、息子だつて産んでないかもしれないよ。だから誰も来ないんだね。私は誰も産んじやいない。ということは誰が息子でも娘でも構いやしないって訳だ。ねえ……。別にあんたが娘でも良いんだよ。ありがとう草餅。なんだか嬉しくなつて来ちゃつたよ。はははははは。草餅おいしい……。母ちゃんがね、お祭りの時に作つてくれた。ははははは。やつぱり草餅はおいしいねえ。

と、サングラスの女、堪らずに声を掛ける。

夢
母さん！

生子
……

絵夢
母さん……

生子
あれ？

絵夢
忘れちゃった？

生子
え？ あれ？ 私の娘は……

公男
……姉ちゃん？（神父と呼ばれた男は絵夢の弟の公男だった）

絵夢
おう……久しぶり。

公男
何やってんの？

絵夢

お見舞い……

公男

良く時間取れたね……あれ？ 舞台、本番中じゃないの？

絵夢

三日間中止になったのよ。出演者インフルエンザになっちゃって……。そんな

公男

時じゃなきゃ来られないのが、ほんと悪いんだけど……ごめんね。

真由美

まあ……仕方ないよ。俺も忙しいけど、長男だから……

公男

やっぱり神林絵夢さんですよ？ すると、こちらは？

真由美

……

公男

若作りしてるけど、姉は還暦ですから。

真由美

……

生子

誰が還暦だって？

絵夢

私です。

生子

笑っちゃうよ。何で私が還暦の子供産まなくちゃなんないの。

絵夢

還暦のまま生まれてきたんじゃないありません。育った末に還暦になったんです。

生子

私いくつ？

絵夢

八十五。

生子

まさか……

絵夢

じゃあいくつなの？ 生子さんは。

生子

あんたよりは若いよ。そうか、私には娘がいたっけ……娘はいたんだなあ……可愛かったなあ……

絵夢

何で過去形なの。

生子

生まれた時は二八〇グラムしかなかったんだけどね、家族みんなで太らせて当時の健康優良児になっちゃった。毎日日光浴させたっけ。真っ裸にしてさ。いっつも見本にされて「この子のように太らせてください」ってさ。町中の赤ん坊のモデルにされて。あたしも鼻高々だったさ。泣いたことなかったなあ……あの子は……いっつも天使みたいに笑ってて、可愛かったなあ……

絵夢

何やってるの？ 娘さん。

生子

……うふふ……タレント……

公男

いっつも同じ話……姉ちゃんの記憶はあるけど、目の前の姉ちゃんが誰だか分からないんだなあ……

真由美

あたし好きなんですよ、「千の目刑事(デカ)」。毎回、夜空の星に向かって「ありがとう」って叫んで涙流すでしょ？ 思わず、いっつももらい泣きしちゃって、私も心の中で「ありがとう」って言っちゃいます。お昼の再放送も楽しみにしています。

佐々木

それでいっつもサングラス掛けてたんですね。親を介護施設に入れてるって言われたくなかったんですね。

絵夢

そんなこと……

美代子、出てくる。そしてぎよっとして飛びのく。

美代子

お義姉さん。(美代子は公男の妻である)

絵夢

そんなに驚かなくてもいいでしょ？

美代子

だっていつつも怒鳴るでしょ。怖いよ、何だか……

絵夢

怒鳴っていません。声が大きいです。

公男

昔から母さんも言ってたよ。姉ちゃんは怖いって。

生子

まあまあ……みんな仲良くしなさいよ。まあまあお茶でも入れましょう。

と、生子、お茶の道具を探す。

美代子、奥でお盆にカップを乗せ、やかんの麦茶を注ごうとすると、良子が

手で制して注ぐ。

美代子、お辞儀をして手前に戻る。

絵夢

お母さん、思い出してくれたの？

生子

何を？ あ、すみませんねえ。いつもいつも。

と、生子、良子の手のお盆からカップを受け取り、みんなに配る。

絵夢

……母は人間ですよ。ちゃんと人間扱いして下さい。

良子

何を言ってるのか分からない……

絵夢

何ですか？ こんなプラスチックのコップで母が麦茶を飲まなくちやんないんですか。麦茶なんて母は若い頃から飲んだことないですよ。麦茶は体を冷やさんです。だいたい冬に飲む飲み物じゃないですよ。麦茶はね、真夏のギリギリした太陽の日差しを浴びて、海水浴の砂浜とか、田んぼの下の草取りのお昼の休憩時間に飲む飲み物です。こんな真冬の、インフル真つ盛りの季節に何で麦茶なんか。そして、幼稚園児じゃあるまいし、何が悲しくてたぬきのイラスト入りのこんな茶色のプラスチックの、カップで飲まなきゃなんないんですか！

良子

たぬきじゃありません。鹿です。バンビです。

絵を描いていた藍原、絵夢に近寄り、突然喋って退場する。

藍原

バンビを描いたディズニ一の元社員は昨年十二月三十日に百六歳で亡くな

美代子

公男

良子

絵夢

美代子

絵夢

美代子

絵夢

美代子

絵夢

りました。タイラス・ウオン。中国人でした。

バンビ？ それにしちや耳が大きすぎない？

ピカチューですよ、これ、色が褪せて茶色になっただけで、元は黄色ですよ。僕知ってますよ、このコップのピカチュー時代。

製薬会社からの寄付なんです、このコップは。お年寄りは可愛い模様を好むんです。

年寄りには、幼稚園児とは違います。母は、きちんと煎茶とほうじ茶を飲む器を変えてましたし、コーヒーと紅茶のカップにも拘ってる人なんです。あたしがロケで買ってきた萩焼が気に入って、それで煎茶を飲んでました。紅茶は伊万里焼の、ソーサーの真ん中に塩吹く鯨の模様のある、珍しいカップで飲んでいました。

ああ、ごめんなさい……あれ、あたしがちよつと……

割ったの？

パートが忙しくて、腱鞘炎になっちゃったもので……

割ったの？

ちゃんと弁償しましたよ。

あ、去年美濃焼のカップが洗い桶に入ってたけど、あれ？ ソーサーに鯉の滝

登りの絵が描いてあった……

美代子

高かったんですよ、あれ。

絵夢

あれは陶器でしょ、伊万里は磁器だし、しかも、鯨と鯉じゃ、全然……

と、興奮してくる。

美代子

そんな細かいこと分かりませんよ、おばあちゃんにはもう……

絵夢

楽しみなよ、母さんの。器をめるのが楽しみな。苦労して、苦労して、やっと何からも縛られなくて済むと思ったら、こんな、プラスチックの……。

しかも麦茶……。母さんは緑茶が好きで、日に五杯は飲んだのに……。煎茶は宇治茶しか飲まなかった。京都の宇治茶、父さんは霧島茶が好きで……。(と声を詰まらせる)

良子

午後から煎茶なんか飲んだら夜眠れなくなりますからね。

絵夢

眠れなくなったって良いでしょ？ それに飲んだって眠れます。母はいつも九時になったらグーグー寝てましたよ。昔から早寝早起きなんだから。

良子

トイレが近いんですよ。しかも、裸で廊下に出ちゃうから……

美代子

そうそう、それで私もこちらにお願いしたんです。平気で下着だけで廊下に出ちゃうんですよ。認知症って怖いですよ。夜お客さんなんて呼べませんよ。夏なんか上半身裸だもの……。下はお義父さんのパンツ穿いて……。あたし、心臓

絵夢

美代子

が止まるかと思った……
……それ、昔からですから……
ええ？

絵夢

私が子供のころからですから、何度注意してもパジャマ着ないのは。母は田舎の人なんですよ。みんな上半身裸で行水したりするのが当たり前の江戸の日本人の慣習がまだ残ってるんですよ。イザベラ・バードの紀行文読んだことないですか？ 昔は銭湯だって男女混浴。裸に關して大らかな時代のままなんですよ。今もドイツ人が男女一緒に真つ裸でサウナに入るのと一緒です。合理性を追求した結果だったんですよ。それを認知症になったから裸になったと思う、そんな発想を持ってしまう貴方たちこそ、変態なんです。

美代子

お義姉さんは時々、思い出したように実家にやってくるだけだから、そんなことばかり言ってるんですよ。毎日毎日一緒に暮らしてる私たちの身にもなって下さいよ。

絵夢

一緒に暮らしてるって言っても、一階と二階に分かれて住んでた訳で、ご飯も一緒じゃなかったんですよ？ 父や母の性格、分かってないと思うのよ。こんな集団生活、母には向かないと思う。アルバムもない、壁にポスターも貼ってない、こたつもない、こんな無機質な白い壁の部屋……こんな管理された、収容所みたいなのに、何の罰が当たって母が入らなきゃならないの！

美代子

そんなあたしたちを鬼みたいに言わないで下さいよ。ここは町でも一番古い介護施設で、歴史のある大きな病院が経営してるんです。何かあったらすぐに医師が診てくれますし、二十四時間体制ですし、あたしもこの人も働いてて朝が早いし、留守中にもし何かあったらどうするんです？ お義母さんが、夜徘徊したりして方が一交通事故にあったり、転んで骨折したりしたら誰が責任取るんです？

絵夢

そんな方が一の心配より、今を楽しく生きていかどうかでしょ？ 毎回ここに来るたびに無表情になって……あたし頼みましたよね？ 折り紙とか刺繍とか、人形作りとかやらせてほしいって……去年持ってきた芝居のポスターやパンフレットもどこにも無くなってるし……

良子

絵夢

ポスターを貼ると興奮するんでね。血圧が上がるんで……
血圧上がるのも興奮するのも人間だからですよ。

良子

思い出思い出って絵夢さんはいうけど、ここに暮らしてからの思い出だって生子さんにはあるんですよ。昔の思い出だけ話してどんな未来があるんですか？ 未来？ 母さんに未来があるんですか？ これから育つ何かが母さんにあるの？ 子供の頃の楽しいあれやこれやを思い出しては昨日のこのように話す楽しみ、それしかないんじゃないんですか？

絵夢

良子

これから先どんどん生子さんは黙っていく。どんどん人間じゃないものになっ

ていくでしょう。

絵夢

母さんは物になんかなりません。母さんは、いつまでもあたしの母さんです。人間喋らなくちゃ、言葉を忘れていくのは当たり前です。昔から母さんはお喋りだったんだから。喋らなくなった母さんなんか、母さんじゃない。あたし、母さんに毎日思い出を話しかけて、毎日喋って記憶を取り戻していきます。私、引き取ります母さんを。

良子

無理ですよ。東京のあなたの家の近くに緊急時に対応してくれる医者がいますか？ 徹夜の撮影の時に何かあった時にすぐに戻ってこられますか？ 結局あなたは人殺し。親殺しになってしまっただけですよ。ここが一番安全なんです。あなた、ゲシユタポの女看守か！

絵夢
佐々木

そこまで言わなくても……

なんですか、あなたは、やる気があるんだかないんだか、シヤキツとしなさいシヤキツと。

佐々木

疲れてんですよこっちは……

万田

佐々木さん、気を付けないと……

佐々木

ええ？

万田

ブログとかに書かれちゃ厄介ですから……

佐々木

書かないよ、書けないでしょ……こっちは虐待してる訳じゃないんだ、精いつ

ぱいやってるんだから、二十四時間体制で。安い賃金でやってるんだもの、時間通りに起きて、同じ時間に風呂入って貰って、みんな一緒に食事して貰わなきゃ、やってらんないよ。大変過ぎて。

万田 佐々木さん。

佐々木 そうですね。ここは寄宿舎と一緒にですよ。職員の都合に合わせて時間割作ります。入所者優先ではありません。でなかったら潰れますよ、みんな。入所者一人一人の個性や都合に合わせていたら、これだけの人数じゃやっていけませんよ。

万田 佐々木さん……

佐々木 嫌だったら、いつでも他移って良いんですよ。ねえ、本村さん……

良子 私、神林さん好きです。いつも穏やかで、暴れることもないし、私たち職員にも親切にしてくれますし。

生子 ありがとうございます。この子は子供もいなくて可哀想な子なんです。どうか、どうか、この子もここに住めるようにして下さい。私が死んだ後もここで暮らせるようにしてください。お願いします。お願いします。(と、手を合わせる) 母さん……

絵夢

美代子、ハンカチを出して涙を拭いている。

介護士たちも涙を拭いている。

絵夢

何で、あんたたちが泣いてるのよ。

美代子

母の愛って凄いわよね……ボケてたって、自分のことより娘のこと心配してるんだから。

絵夢

だから、ボケてないってことでしょ？

美代子

お義姉さんは全然分かってないのよ。

絵夢

分かかってないのは、美代子さんよ。

公男

まあまあ。

絵夢

まあまああって、だいたいあんたがしっかりしてないから。

公男

しっかりしてたら、こんな苦労してないよ。俺がしっかりしてたら、姉ちゃん、

東京で演劇なんかしてらんないぞ。

はあ？

公男

交代で面倒みようって言うてるよ。何で俺ばかり我慢して、姉ちゃんだけ好

きなことやってるんだよ。父さんも母さんも姉ちゃんの活動を応援してたし、芸

術家ってのは貧しいもんだと思ってたから、こっちが支えてやんなくちやなん

ないとずっと思ってた我慢してきたんじゃないか。父さんは寝たきりでもう動け

ないけど、まだ生きててくれてるから年金が貰えて、介護施設にも入れられる

絵夢

んだ。もし死んじゃったら、母さんの年金だけじゃもうやっていけないんだよ。美代子のパート代と俺の給料合わせたって、修の学費と仕送りできつきつなんだ。未来が暗くて、朝起きても毎日霏がかかっている。母さんたちはまだ良いよ。年金かなり貰っているから。俺たちなんて……もう全くお先真っ暗。気の毒だけど父さん生かして、母さんを……

……

美代子

老人ホームに入れたくても順番待ちなんですよ。後、二人死ななきゃ、入れないって……

絵夢

はあ？

美代子

今は、なかなか死なないから、順番回ってこないんだって。お義母さん、三番目なんだけど、お願いしてから二年経っても……老人ホームに行けば、みんな料理なんか作って、ゲームとか、歌とか、毎日好きなことして暮らせるって……。でも月に十四万かかるから、お義父さんが亡くなったら、もうあたしたちには無理ですから。

絵夢

あたしが払います。あたしが全部払うから、早くここから出して下さい。

美代子

だから、後二人死なないと……

絵夢

……だったらこの部屋をもっと快適にしなくちゃ。この前私を持ってきたカーペットどこにあるんですか？ こたつももってきたはずですよ。

良子

夜中にトイレ行ったりするときに引っかけたって転んだりして危ないので、翌日弟さんに持ち帰ってもらいましたよ。

絵夢

翌日？ 翌日持ち帰った？ 公男。

公男

そうだったかな？

美代子

覚えてないです。もう忙しくて……

絵夢

もう半年も前よ。私があれば持ってきたのは。

公男

持ち帰ったかな？ カーペット。こたつなんか……？

絵夢

あのカーペットは私とお揃いなよ。母さんと同じカーペットに座ってるって、楽屋でしいて、励みにしてたのに……

と、その辺の棚などを探し回る。

良子

何するんです？ やめて下さい。

絵夢

探すんです。しまつてあるかもしれないでしょ？

良子

やめて下さい。勝手に引き出しあけたりしないでください。入所者の秘密保護の義務がありますから。

絵夢

私がそんなことする訳ないでしょ？ 他の患者さんの秘密を暴露したりするわけないでしょ？

良子

規則なんです。

絵夢

母さんにこたつでテレビ見せたいのよ。だらしなく寝転んで好物の草餅たべながら、裸でダラダラさせたいのよ。

良子

神林さん。お姉さん困ります。入所者の家族の責任者は公男さん一人ですから、こちらは何かあると、公男さんおひとりに連絡することになっています。御家族のことは御家族で解決なさってください。そして、お姉さんをもうここに来させないでくださいね。

公男

すみません。姉は昔から感情の起伏が激しくて、自分が、これが正義だと思い込んだら一途になっちゃって、私たちが何を言っても聞きませんから。姉の中では、もう私たちが悪玉ですから。

良子

悪玉？

公男

お芝居の中の善玉、悪玉、の悪玉ですよ。

絵夢

何言ってるのよ。あんたがこんな風になっちゃうなんてね。あたしたち、子供のころから仲良しだったのにあんなに気が合ったのに……なんでこうなっちゃうの？

美代子

あたしに感化されたって思ってるんでしょ？ お義姉さんは……あたしが演劇とかそういうものに理解のない愚かな一般人だから、お義父さんやお義母さんに敬語も使えないような態度の悪い嫁だからって。芸術文化を愛でる、文学

生子

一家神林家に何の間違いか？ ゴミみたいな、ハエみたいなこんな女が入り込んじゃって、すみませんねえ本当に。公男さんだって、いつまでもお義姉さんの言うことをきく気弱な少年じゃないんですよ。もう子供の父親です。自分のやりたいことを犠牲にして働いて働いて子供二人を立派に育て上げた東北の親父なんですよ。いや、まだまだ子供にはお金がかかる。まだまだ育て上げてはいませんけどね。

喧嘩しちゃだめだよ。みんないい子なんだよ。本当は。

神林乙女がそっと来ていた。

途中で藍原も戻り、絵を描き始めている。

乙女

おばあちゃん……

生子

誰だい？

乙女

乙女だよ。

生子

絵夢じゃなくて？

乙女

絵夢は伯母ちゃんだよ。あたしは孫だよ。家に誰もいなかったから、こっちかと思っさ。

美代子

帰ろうと思ったところにお義姉さんが来たもんだから。

公男

もうそろそろ帰るよ。ごはんまだだろ？

和子

乙女ちゃん。

乙女

あ、和子。ボランテアってここでやってたんだ。

和子

そう。冬休みの間だけね。どう？ 仕事は。

乙女

うん……

和子

なんか痩せたね？ 大丈夫？

乙女

うん、ちよつと忙しくてね。やつと休みがとれて帰ってきたの。毎月奨学金返

生子

してるから、仕送りもできなくて。親にも迷惑かけちゃってるなあ……

生子

親なんてものは子供に迷惑かけられるためにあるんだよ。それが楽しみなんだ

絵夢

から……

生子

……

生子

それがこんどは子供に迷惑かけることになるとはねえ……あたしのために喧嘩してるんだものねえ……

絵夢

母さん。

生子

なんだかあたし、死ぬ気がしないんだよ。死にたいと思ってもさ、死ぬ気がし

絵夢

ない、父ちゃんも死なないね。父ちゃんより一年で良いから長生きしたいと思

絵夢

っていたけど、ボケちゃったら長生きしても意味ないねえ……

絵夢

意味なんて関係ないよ、意味なんて。生きてる意味なんて……みんなないよ。

乙女

そうかな……意味ないかな……

和子

なんか元氣ないね。

乙女

疲れちゃって……

公男

お前、まさかうつ病なんて言わないよね？ 会社やめるなんて言わないよね？
ここまで苦勞して仕送り続けて、やっと就職した会社、簡単に辞めたりしないでくれよ。こっちは七十歳までローン組んでるんだからな。後二十年近くあるんだよ。修が大学卒業するまで後三年。それまで我慢するか、結婚するか……父さんも母さんももう、限界だからな。

美代子

乙女は何もそんなこと言っていないわよ。

乙女

乙女なんて名前が良くなかったなあ……八十歳のお婆さんになっても乙女なんて……乙女のまま死ぬしかないかも……

生子

おばあちゃんだって生きる子と書いて生子だよ。死んだって生子だよ。

絵夢

なんか母さん、正氣になつてきた。母さん、東京来る？ 私と一緒に暮らさない？

生子

やだよ。山崎県から出たくないよ。年寄り新しい暮らしは苦手なんだ。早く帰りたいよ。家に帰してください。

乙女

もうおばあちゃんの部屋ないよ。改装しちゃったから、畳の部屋もうないもの。

絵夢

そうなの？ じゃあ、あたしが実家帰っても泊まる部屋ないの？

公男

姉ちゃんはいつもホテルに泊まるじゃないか？ おばあちゃんが耳が遠くな
ってからテレビの音が大きすぎて、朝寝てられないし、仕事に集中できないか
らって。それに、じいちゃん、ばあちゃんがいない家に帰ってこないだろ？ も
う。だから、関係ないだろ？

絵夢

実家って、どういう意味だっけ……

美代子

あたしだって、実家にはもう自分の部屋なんかないわ。

絵夢

……じゃあ、あの、父ちゃん、母ちゃんが集めてたあのポスターは？ 私が上
京してから四十数年、あたしの出演したポスターやうちの劇団のポスター廊下
に貼ってあったでしょ？ 出演者のサイン入りの。玄関から所せましと……あ
たしが載ってる新聞記事とか雑誌のインタビュー記事なんかも、記念館じゃな
いんだから、みたいにさ、あれどうしたの？

美代子

捨てましたよ。

絵夢

……相談もなく？

美代子

もう日に焼けて、汚れてましたし……

絵夢

サイン入りなの？ 世界に一枚しかないの？ 母ちゃんたちがあんなに
大切に四十年間楽しみに貼り続けてたの？ なんであたしが来るまで残し
てくれなかったのかな……旗揚げからのポスター、もう実家にしかなかったの
に……実家に送れば間違いないと思って、保管してくれると思って……。一言

……両親にもあたしにも相談なく捨てちゃうなんて……

と、絵夢、泣き崩れる。

美代子

……

公男

……

美代子

まさか、そんなに大事なものだとは思わなくて……

絵夢、暴れる。

あきれ一同。

介護士たち現れ、絵夢を拘束する。

絵夢

何してるんですか？

良子

拘束してるんですよ。危険ですからね。そんなに興奮したら血圧が上がります

絵夢

よ。絵夢さんに血圧を下げる薬と、興奮を収める薬を。やめて下さいよ。ちよつと酔っぱらってるだけですから。

良子

あなた、お酒を飲んでここに来たんですか？

絵夢

飲まなきゃ、本音言えませんよ。私、これでも気が弱いんだから。

と、水島貴子、ヘルパーの衣裳で現れる。

貴子 時間ですよ。

良子 あ、水島さん、この人、酒飲んで暴れちゃって。

貴子 演劇やってる人でしょ？ 写真は焼き増しできるけど、ポスターはもう印刷できなからね……

美代子 そうなんですか？

貴子 みんなもからかっちゃ、気の毒ですよ。

介護士たち、一斉に絵夢から離れる。

絵夢 これは一体……

ベッドから起き上がる老婆たち。

貴子 お聞きなさい。私たちの話を。聞くも涙、語るも涙の本当のお話。

藍原 本当の？ 誰にとつての本当なのか？

田中 私にとって。

高橋 私にとって。

生子 私にとって。

貴子 私にとって。

藍原 そんな都合の良い話なんてあるのでしょうか？ それぞれみんなにとっての

本当なんて。みんながみんな主人公の話なんて。

絵夢 ないわよそんな都合の良い話は。誰かを中心に描こうとすればそれ以外の人物

は脇に追いやられるのが物語というもの。じゃなきゃ整理が付かないでしょ？

トム・ストッパードが「ローゼンクランツとギルデスターンは死んだ」を書い

たのも、そんな演劇の約束事を風刺したい思いがあつたはずよ。

貴子 ううん。しかし、これはレッスン。レッスンなら何でもできる。本番までの一

時期、私たちは毎日、お互いの細胞に寄り添おうとしているかのように、エチ

ユードを繰り返す。

あなたは誰なんです？

ヘルパーです。

絵夢 ここの入所者ではなかったのですか？

貴子 入所者と同じ年頃でも働かなきゃならない人間もいる。

絵夢 なるほど、死ぬまで働かざるを得ない下流老人ですね。

美代子

公男さん、私たちの将来を見るようね。

公男

後二十年経ったら、その時考えよう。

絵夢

時間です。とあなたは言った。それは、そのレッスンが始まる時間だということですか？

貴子

その通り。この山崎県山崎市に三つしかない劇団の中の一つ「谷間の百合」。

四十年前にやむ無く解散した、この社会派地方劇団の劇団員たちによるレッスンなんです。

絵夢

社会派なんですね？

貴子

旗揚げ当時はそう言っていましたね？ 主宰者は。

絵夢

主宰者があなたなんですか？

貴子

いいえ。主宰者は……主宰者は……主宰者は、今はいないとだけ答えておきましょう。そのうちあなたにもわかるでしょう。

絵夢

四十年前の劇団員たちが、この介護施設に？

貴子

約束したんです。それぞれの仕事や子育てが一段落して、ゆとりができれば上演できなかった最後の作品を自力で上演しようって。そうこうしているうちに四十年も経ってしまった。この介護施設が立つ前、ここには古い工場があって、その一室で私たちは仕事が終わった午後七時から毎日最終のバスの時間まで稽古してたのよ。

藍原

廃屋の工場。空襲を免れて、取り壊されるまで何十年もほつとかれた工場だった。あたしたちはそこをただ同然で借り受け、毎日集まったわね。みんな仕事を持ちながら、どうしてあんなに頑張れたのか……

絵夢

ああ、ここには工場があつて、子供の頃、同級生の男の子たちが学校帰りに窓ガラスに石をぶつけて遊んでた。先生に見つかつてビンタ食らつた子もいたっけ。

公男

それ隣の敦君だよ。体が大きくて頼りになつたから、俺、コバンザメみたいにいっつもくつついてて、ビンタ食らつたの見てたよ。窓から歌が聴こえてた。ガラスが割れて顔覗かせた男の人がやけに悲しそうな顔してたな。

藍原

ビンタ食らわせたの私かも。

絵夢

ええ？

貴子

藍原さんは小学校の先生してたから。美術が専門よね？

藍原

あの日は土曜日だったから、みんな早めに集まって本読みしてたのよ。そしてらガラスが割れて、吉川さん、手の甲切つたのよ。

貴子

そうそう、とつさに顔を隠したからね。流石だった。やっぱりヒロイン吉川涼子は違うつてみんな唸つたね。

絵夢

藍原先生……学芸会をいつも仕切つて「死ぬ気でやれ！」と子供たちに怒鳴り、PTAからも恐れられていたいつも「死ぬ気」の正義の人。藍原佐和子先生で

すか？

藍原 「気」だからね、気。死ぬ「気」。死ぬって言ったんじゃないよ。死ぬ一歩手前のことよ。

絵夢 小学生には分からなかったなあ、そんなこと。あたしなんか息止めて台詞言ってたなあ。死ぬ一歩手前ってそういうことかと思っただもの。

美代子 みんな変わってる。やっぱり変わってますよ。演劇なんかやる人は。

公男 水島貴子さんも先生だったんですか？

貴子 ……豆腐屋です。(なぜか気取って言う)

絵夢 え？

貴子 夫婦で豆腐作って駅前で売ってました。朝が早いから、夜の稽古はきつかったけど、今思えば楽しかった。目的があるってことは楽しいことね。精神的支柱があるってことは。でも自営業だったから、年金甘く見た。まさか、夫が六十八歳で死ぬなんて……払ってなかったの。年金のないものは死ぬまで働くしかない。ボケるまではだけど。さあ、時間です。

ハープの妙なる音楽が聞こえる。

劇場のミニチュア出る。(生子が劇場のミニチュアを持って現れ、棚に置く) シーツの幕が上がると、介護士たちがハープを演奏していた。

ハーブの後、他の介護士たちも演奏に加わる。

吉川涼子が歌う。この後、ミュージカルシーン。

吉川、カバンを持ち、品の良い、旅行者のいでたち。手に紙片を持っている。

吉川

「欲望」という名の電車に乗って「墓場」という電車に乗り換えて、六つめの角で降りるように言われた。すると、そこは極楽。でもあたし、道を間違えたようだわ。ここが「極楽」のはずがない。こんなすえた臭いの、貧しい町が。

介護士

「いいえ、ここは「極楽」 名前の通りのみんなが集う夢の街

佐々木・喜屋武

「誰もが夢を叶えるために

良子

「この街に来る

佐々木・喜屋武

「掴もうこの街で

介護士

「幼いころからの夢を

と、介護士たち踊る。

吉川

「ここが、夢の街？ 今まで歩いてきた茨の道が輝く舗道に変わる世界 暗

闇から日の射す場所へと私を誘う 信じていいのかしら？

二階に明かりが当たると、昭和四十年頃の若い女の扮装の貴子と、ステージママの貴子の母桃子が立っている。

桃子

～ごらん、あれが、吉川涼子

貴子

～あれが、あれが、眩しいわ。

桃子

～弟子にして貰うのよ。

貴子

～私が弟子に？

桃子

～身の回りの世話、犬の散歩、トイレ掃除なんでもするのよ

貴子

～できるかしら

桃子

～やるのよ、やるのよ

貴子

～でもママ、怖い

桃子

～やるのよ、やるのよ お前ならできる

一同

～やるのよ、やるのよ お前ならできる (できる×五回)

貴子、おずおずと階下にやってくる。そこは地下の劇場の舞台。でも怖くなってまた二階に上がってしまう。

桃子が無理矢理貴子の手を引いて、下のリハーサル中の吉川の側に貴子を押し出す。

吉川 何よ、この子は、邪魔しないでよ。

貴子 ごめんなさい、ごめんなさい、もう帰ります。

桃子 このいくじなし。せつかく田舎から列車と船を乗り継いで、やっと出てきた東京。お願いしなさい。どうかこの子をよろしくお願いします。

吉川 んんんん……ちようどダンサーのオーディションがある。この子を入れてあげて。

貴子 ありがとうございます。

桃子 駄目よ。落ちるにきまつてる。この子はまだ何のレッスンも受けていない。どうか、吉川さんの側に置いていただいて、どうか、芸をしこんでやってください。

貴子 ママ。

吉川 とにかくオーディションを。

シーツの幕が下り、一同タップを踊る。他の介護士たちは演奏をする。

ここでうまく、若い吉川と若い貴子に入れ替わり、歌と踊りが激しくなる。

絵夢

あの、これは……

藍原

これは、吉川さんと水島さんの回想シーンね。私たちの上演台本ではありません。

絵夢

回想シーンもついでにやっちゃってんですか？

藍原

そういうことですね。

美代子、息が上がっている。

美代子

体力なくなっちゃって、若い頃は山登りが趣味で、高尾山、筑波山、日本全国の険しい山すべて制覇したのに……悔しいなあ……富士山登っておけば良かったなあ……

公男

無理して踊ることないんだよ。

美代子

みんなやってるのに嫌ですよ。私だけ仲間外れは。やらなきゃ、やれないみたいに思われますからね。

絵夢

そんなところに意地張ってどうするんですか？

オーディションが始まる。

若い方の涼子2、タップを踏む。

若者たち続いてタップを踏む。

若い貴子2も踏む。

涼子2が注意する前に、貴子の母桃子が色々と注意しすぎる。

萎縮する貴子。

涼子2

お母さん、自由にやらせてあげないと、娘さん、

桃子

貴子です。

涼子2

貴子さん、萎縮しちゃってできることもできなくなってしまいますよ。

桃子

ということは、吉川さん、この子ができるように指導して下さるってことです

よね？

涼子2

まあ……

桃子と貴子2、目を合わせて「よし」という合図。

音楽。

ミュージカルのリハーサルが再び始まり、踊る涼子2の後ろを台本を持って

動く貴子2。

歌。

途中、介護士たちも歌う。

涼子2と貴子2と桃子。後に涼子と貴子も加わり、五重唱となる。

涼子2

〜「欲望」という名の電車に乗って「墓場」という電車に乗り換えて、六つめの角で降りるように言われた。すると、そこは「極楽」。

佐々木・喜屋武

〜そこは「極楽」

良子

〜「極楽」と背中合わせの「地獄」 欲望の果ての「地獄」

美代子

〜人はなぜ、欲望を抑えきれないのか？ 善意も悪意も

公男

〜恋も希望も欲望の先にある

桃子・美代子・藍原・公男・田中・高橋

〜叶えなかった夢、叶わなかった夢

桃子

〜今、私はこの劇場の舞台の上 果たせなかった夢をこの子が叶えてくれるの スポットライト 押し寄せる拍手 もうあくせく働くこともない この子が このステージに立つ この子のために私は生きていく

涼子2

〜贈り物の山 溢れる花束 鳴りやまぬ電話 恋人の甘い言葉 取り巻き
の笑い声 幸せの日々 もてはやされて束の間の夢を見た

貴子2

〜何があっても付いていく 遅寝早起き 無駄口厳禁 言い訳厳禁 遅刻
厳禁 電気の消し忘れ厳禁

涼子

〜共演者の嫉妬 風評被害 疲労骨折 長期入院 若手に役を奪われ

(この歌詞の後に乙女たちのヒップホップ)

涼子

〽恋人は去った 請求書の山 消えた取り巻き 抜け殻の日々 気が付くとさびれた駅に一人

貴子

〽一人じゃない 私もいた

涼子

〽雪降る街 海沿いの街

貴子

〽何があっても付いていく 遅寝早起き 無駄口厳禁 言い訳厳禁 遅刻厳禁 電気の消し忘れ厳禁

涼子

〽電車が来ない 大雪で立ち往生

五人

〽「欲望」という名の電車に乗って「墓場」という電車に乗り換えて、六つめの角で降りるように言われた すると、そこは「極楽」

介護士

〽ここは「極楽」

一同

〽まるで「谷間の百合」のようにひっそりと美しく咲く花たちの街

ハープ高鳴り、ミュージカルは終わる。

絵夢

この人は誰なんです？

藍原
絵夢

この人？
あれ？

真ん中で歌っていた貴子の母「桃子」役の役者を探す。

絵夢

ここで、こうやって歌ってた……

藍原

そんな人いた？

絵夢

(吉川に) いましたよね？ 豆腐屋さんの母親役の……

藍原

ダメですよ、この人に話しかけちゃ。

絵夢

ええ？

藍原

吉川さんは役でしかもう話せない。

絵夢

は？

藍原

吉川さんはうちの劇団の主演女優だった。劇団解散後この四十年、なんといい

か……

美代子

お芝居の台詞でしか会話ができなくなっちゃった……

絵夢

なんで美代子さんが。

美代子

あたしも聞いたんです。なんでこの人、いつもきどってるの？ って。

藍原

饒舌な認知症患者もいるんです。

絵夢

この方、認知症なんですか？

美代子

しっ！

絵夢

は？

美代子

認知症患者に認知症っていうと認知症の進行が進みます。

絵夢

知らなかった。

美代子、声を押し殺して笑う。

絵夢

何笑ってるの。

美代子

お義姉さんの知らないこと知ってるのが嬉しくて。

藍原

中央で活躍していた吉川涼子さんが「谷間の百合」に入団してくれてホントに嬉しかった。お客は倍増。今まで市民会館で日曜一回公演だった興行が、土日の三回公演すべて立ち見の大入りになった。でも、それがプレッシャーになって、霧宮昇を追い詰めてしまったのかもしれないわ。

美代子

お義姉さん、霧宮昇っていうのがこの劇団の主宰者なんですよ。失踪しちゃって、今もって、生きてるのか死んでるのかさえ分からないんですって。

絵夢

……

ベッドに寝ていた生子、突然起き上がって正気になり、舞台上で喋る台詞の
ような口調で話す。

生子 涼子さんが霧宮を追い詰めたっていうんですか？

絵夢 おう！

生子 四十年前に何があったのか？ あの大雪の日、バスも、列車もタクシーも、山
崎県の交通網が一瞬すべて途絶えたあの日。推敲の終わった原稿を抱え、あの
人は一体、どこに消えてしまったのか……

一同 ……

良子 ここにもいましたね。饒舌な認知症患者が。

絵夢 あなたが言うことじゃないでしょ。

公男 まさか、母さんも「谷間の百合」に？

美代子 お義母さんも劇団員だったんですか？

藍原 そうですよ。

絵夢 知らなかったの？

美代子 知らなかった。

絵夢 母さん、母さんも演劇やってたの？

生子、またボケてしまう。

生子

絵夢

いくらなんでももう食べられませんよ。いくらあたしが食いしん坊でも、もう六つ目だもの……草餅。(と、生子、口の周りを餅の粉で真っ白にしていた)だめだ、こりや。話を戻しましょう。四十年前に解散した社会派地方劇団「谷間の百合」の劇団員たちも高齢化し、ま、先もそろそろ見えてきた。ま、死なないうちに、上演するはずだった作品を稽古して、この介護施設の、ま、クリスマス会とかお花見の会とか、そんな何かの記念日に上演しましょうと、こういう企画が持ち上がった訳ですね？ たまたま、稽古していた工場の跡地に建てられた介護施設「メルヘンランド」に元劇団員だった水島貴子さんがヘルパーとして雇われたこともあり、高齢の劇団員たちがこぞってこちらに入所したと。

藍原

んんん。近いね。

真由美

流石、千の目刑事ですね！

佐々木

それで犯人は誰ですか？

絵夢

んんん……ちよつと待ってよ。犯人て何。何か事件でも起きたんですか？ 誰か殺されたんですか？ ここで。

佐々木

いや、……

絵夢

ちよつと待ってよ、あたしここに何しに来たかわからなくなっちゃったじゃないの……

美代子

でもお義姉さん、千の目って何ですか？

絵夢

夜に瞬く星のことよ。数限りない星のように、千の眼で人々の暮らしを見つめているって意味ね。

美代子

へえ、でも、なんで、何人も殺されないと犯人が分からないんですか？ 最初の一人目で事件を解決してくれないと。あれじゃ、謎が解けたって意味ないですよ。あんなに何人も殺されてからじゃ。

絵夢

何？ 何の事？ ドラマのこと言ってるの？ 人が殺されるたびに視聴率が上がるからかな？ ちよつと待ってって。

公男

母さんをここから別の老人ホームに移したいんですよ？ 姉ちゃんは。

絵夢

そうそう。だけど、この芝居の上演が終わるまで、一時休戦よ。

美代子

ええ？

絵夢

あたしだって、劇団の主宰者なんだから、この人たちの気持ちわかるもの。介護士たちも案外上演に協力的だし。

美代子

……ほんと、変わってる。

絵夢

だけど、まさか、母さんが演劇やってたなんて……

藍原

生子は「谷間の百合」の旗揚げメンバーだった。

絵夢・美代子・公男　ええ！

藍原　劇団の名前を考えたのも生子だった。

絵夢・美代子・公男　ええ！　しかし、なんでまた「谷間の百合」なんて。

同時に言った三人、気まづくなって離れる。

藍原

谷間の百合はひっそりと咲いている。険しい谷底の百合は、その愛らしい姿を、見る人がなくてもひっそりと咲いている。だからこそ美しい。サワちゃん、お客が一人でも、三人でも、続けて行くことが大事なんだよって……

藍原、生子に近寄っていく。

回想シーン。

別空間に若い生子と佐和子。

一同はストップモーション。

生子

サワちゃん、鍵が開いてるよ。

サワ

入ってみようか？

生子

真っ暗だよ。怖いよ。

サワ
生子
サワ
生子

ホラ、雲間から満月が覗いてる。
ああ。

階段が良く見える。

うん。

と、二人、階段を下りて軍需工場の地下に下りていく。

サワ

ああ！

生子

ああ……

サワ

満月が映ってたんだ……これは……水……

生子

鏡のように透き通って波一つ生まれな綺麗な水のたまり。

サワ

その中に突き出た青黒いこれは……

生子

これは……

サワ

シッ。誰か来る。隠れよう。

生子

うん。

サワ

息を殺して。

生子

うん。

潜水服の男たち数人、現れる。

黒く突き出たものが轟音とともに姿を現す。

物陰のサワと生子、大いに驚く。

男たち、ハッチを開けて点検を始める。

と、扉の開く音とともに月明かりが射し込む。

警備員の男が地上より下りてくる。

警備員

何をしている。

無言の男たち。

警備員

お前たちは……

男

あ、艦長殿。

警備員

どういふことだこれは……

男

艦長殿こそ。……生きておられたのですか。

警備員

昨年佐世保の病院を退院できたが、家族を空襲でなくし、行き場を探していたところ、この警備員として配属された。この義足の足では、碌な仕事に就けないのだ。しかし、ここにこんな場所があったとは……そして、死んだはずの

お前たちと出会えるとは……。これは……

男

ええ……。ブルーホエールです。

警備員

どういふことだこれは……

男

私たちがこれに助けられたのです。国境なきこの潜水艦のことは噂には聞いていました。私たちは撃沈した海軍の潜水艦と共に海の藻屑となるはずでした。しかし、この潜水艦に助けられたのです。このブルーホエールに……

警備員

男

乗組員たちは、皆、肌の色の違う少年兵たちで、誰も言葉は通じませんでした。しかし、言葉は通じなくても私たちには分かったのです。少年たちがこの潜水艦で何をしようとしているのか……。私たちがここで、この廃墟の軍需工場の秘密の地下室で、この「青い鯨」を整備することにしました。僕の故郷がここ山崎県山崎市の花田村でしたから。この水路は日本海につながっています。これから私たちは海に向かい、西に向かって出帆します。子供たちを救いに出かけるのです。

警備員

お前たち……

男

僕たちは、もういない人間です。ここにいるのは無国籍の幽霊たち……。艦長殿、どうか見逃していただきたい。

警備員

俺はもう艦長ではない……。戦争は終わったんだ。

男

残念ながら、戦争は終わっていない……あれだけ人が死に、核爆弾を二つも喰らっても、何も変わらない……僕たちはあの戦争が終わった時十六、七の少年でした。あれから十年……もう当分はこの国には帰らないでしょう。

警備員

食料は積んだのか。

男

はい。千人が一年は暮らせるだけあります。

警備員

支援者がいるのだな。

男

ええ。すべて闇の世界。国境のない支援者たちです。

サワたち、足を滑らせる。

男

誰かいるのか。

サワたち、姿を現す。

警備員

何だ女か。

生子

そういう言い方は差別だと思えます。

サワ

生子。

警備員

こいつらは俺が何とかする、お前たちは早く出かけるんだ。

男たち

はい。

サワ

あたしも連れて行って下さい。

生子

サワちゃん。

サワ

こんな国出ていきたい。あたしも子供たちを救いに行きたい。

男

静かにしてくれ。

潜水服の男たち、潜水艦に入っていく。

サワ

連れてって。連れてって。

生子

サワちゃん、サワちゃん。

警備員の男、暴れるサワを必死に押さえつける。

男たち、奇妙な動きで別の空間に移動する。

サワ、尋常ならざる表情。それを見る生子。

照明変化し、船着き場のシーンに変わる。

船着き場のミニチュア出る。船の出帆する音。

まだ子供の吉川涼子がテープを持っている。

そのテープの先に吉川の母、道子。

淡路島から出る船に乗り、大阪へと向かう母道子。（道子は桃子と同じ役者が演じている）

涼子

お母ちゃん、氣い付けてな。

道子

あんたも氣い付けて。お母ちゃん、すぐに迎えに来るさかい。次郎、三郎、花子頼むで。

涼子

お父ちゃんが機械に挟まれて寝たきりになってしもうて、お母ちゃんしか頼りにだけへんもん。しゃあない。

道子

落ち着いたら迎えに来る。お父ちゃん大戦で命からがら南洋から帰ってきたのにあんなになって可哀想や。大阪の大きな病院に入院させたるわ。それまで、辛抱して待つとり、な。

涼子

うん、あたしも、学校出たらすぐ働くわ。大阪で一緒に住もな。

汽笛が鳴る。手を振る涼子。

道子

さいなら。さいなら。一年だけ待ちい……

生子、船着き場のミニチュアを下手の棚の二段目に置く。

絵夢

この人ですよ。この人。さっきは水島さんの母親役。今は吉川さんの母親役。回想シーンで活躍するこの人は誰？

道子、消えている。

一同

……
ええ？

藍原

誰かいましたか？

一同

いいえ。

絵夢

……

藍原

水島さん、誰かいましたか？

貴子

いいえ、あたしたちの他はここには誰もいませんよ。介護士とボランティア、そして神林家の人たち。そして、私たち劇団員の他は。

絵夢

ええ？ あたし、まだ酔ってるのかな？

サワの家の二階のミニチュア出る。(生子がミニチュアをまた出したのだ)

母清子が身体を売るため、男を連れ込む部屋である。

サワの母清子が酔っぱらって帰ってくる。藍原に声を掛ける。

昭和二十年頃の水商売風の扮装。

清子

何やってるんだよ。まだ風呂にも入ってないのかい？

振り向く藍原、何か言おうとしたときに、回想のサワが現れる。

サワ

今、帰ってきたところ。勤労奉仕で山に木を伐りに行ってきたんだけど途中で帰ってきた……

清子

何で。

サワ

……

清子

なるほど。二階に行ってきたな。

サワ

ええ？

清子

明日特攻する兵隊さんがいるんだよ。行ってきな。

サワ

ええ？

清子

行けば分かるから……

サワ

嫌だよ。絶対嫌だ。

清子

全財産貰っちゃったんだよ。天涯孤独の身だからって。これで、あたしら親子二人、当分暮らしていけるんだもの。もしお前が断ったら、お前殺して、母ちゃんも死ぬぞ。それでもいいのか。この花田村の漁師の家で、戦争中に田畑のない者はのたれ死ぬしかないんだよ。シベリアから帰ってきた父ちゃんの骨みたる？ 石ころひとつ。バラバラになって骨もなくなって、人ではなくなっただってことだ。二階の若い兵隊さんもおんなじになるんだぞ。行け。……

サワ
藍原

行くな。

と、しゃがみ込む。

次の台詞の間、生子、サワの二階のミニチュアを上手奥の机に置く。

絵夢

あなたは誰ですか？

清子

この子の母親ですよ。

絵夢

これは藍原さんの回想シーンですよね？

清子

回想シーンって？

絵夢

「谷間の百合」の劇団員たちのです。

清子

私は今、娘を男に売り飛ばしちやっただよ。小学校六年のまだ初潮が始まっ

藍原

絵夢

藍原

絵夢

藍原

絵夢

藍原

絵夢

たばかりの娘をね。鬼だよ。しかも、犯されて気絶した娘を残したまま、男と夜逃げするのさ。お金持って。……仕方なかった、ああするしか……

気が付いたら病院のベッドだった。なぜ今頃こんな夢を見るんだろう。

これは夢なんですか？ 藍原先生の。

私にはあの時の記憶がない。人事不省の二年間の記憶が。生子の母親、母の妹の鶴子が入院費を出してくれていたんです。

鶴子は私のおばあちゃんです。つまり、お母さんと藍原先生はいとこだったんですね？ その事件がきっかけで、後に先生はフェミニズム運動に没頭されたんですね？ お母さまを反面教師にして。

もう本当に記憶が薄れてしまつて……

でもこの人は……あれっ？ またいない。

え？

回想の母親役の……

藍原、一心不乱に絵を描き始める。

患者たちベッドに入つて眠る。

貴子、劇団員から、ヘルパーの顔に戻つて。

貴子

終わらないね。いつまでたつてもその絵。いつになったら完成するの？

藍原

これからなんだよ。この絵はこれから描くんだ。

貴子

え？ もう完成しているように見えるけど。

藍原

これは違うのよ。これはあの人が描いた絵。

貴子

あの人？

藍原

絵を描くのが趣味でね。これはチラシに使うはずだった絵なの。私が子供の頃に青い鯨を見た話をあの人にしたら、あの人が一晩で描きあげちゃったの。なんでもやるのが早くて。あたしはね、遅いのよ、やるのが何でも……こうして四十年、この絵を見つめながら……まだ描けない。

貴子

描きたい絵があるの？

藍原

……なぞってるだけなんだな……あの人の夢を……

貴子

あの人の夢？

藍原

あの人が書いたものを読んで、あれこれ意見を言って、どうしたら言いたいこととお客に伝わるのか？ 一緒に考えるのが好きだった。お客というより、私は、あの人を喜ばせたいだけだったのかも知れない……自分なんかなかったのかも……

貴子

その絵を見ながら、四十年、あんたはそんなことを考えて来たの？

藍原

オリジナルって何なんだろうね？ 思いついたことがみんな、もう何千年も前

貴子 からとづくにやられていたことなんだよ。新しいことがやりたいのにさ。
どこかで読んだことのある本、聴いたことのある歌。見たことのある絵。……

年を取れば取るほど、そんな既視感に捉われる。それが何千年、何万年のレベルで死者たちの記憶の中に眠っている。それがこの宇宙の闇だろう？

藍原 宇宙？

貴子 そう、この舞台の夢。これからここであたしたちが上演する舞台の夢。観客は自分自身。もう目に見えるお客なんかいらさないんだよ。あんたが四十年描こうとして描けなかった、胃の中にあるシコリみたいに不安な、もやもやとしたものを吐き出して、洗っていけばいいだろう？

藍原 でも、貴子、霧宮昇は、どうして上演の前に消えたんだろう。あたしたちを残して……

貴子 あんたに分からなければ、誰にも分らない……

藍原 ええ？

貴子 みんな知ってるよ、霧宮さんと藍原さんが一緒に暮らしていたこと。だから藍原さんは人一倍、この作品にこだわっているんだってこと。

藍原 やれるうちにやっておこうと思いつながら、あつという間の四十年。

貴子 みんなが起き出したら、稽古しないと……

藍原 日本人の女の健康寿命は七十四歳だって……ぼやぼやしてられないよ。

貴子

分かってる？ 藍原さん、あんたもう八十七歳だよ。健康寿命どころか、平均寿命さえ超えてるんだよ。

藍原

……

まさか生子さんがあんなにぼけちゃうなんてね……。あんなにしっかりして、一番気が付いた人が。

藍原

衣裳も小道具もみんな一人で仕切ってやってくれてたね……

涼子がベッドから起きてくる。

涼子

先生、田中さんの熱がまだ下がりません。

藍原

だから私は医者じゃありません。

涼子

そう、さつきあなたは、私は画家だと、私に言った。閉ざされたこの僻地の病院で、絵を描く画家がいるのなら、ここは精神病院だということになってしま

藍原

う。
私は入院患者ではありません。患者の皆様には絵画の楽しみを教える画家なのです。院長に頼まれて、毎週通っているんです。

涼子

それでは医者はどこにいるんですか？ 私は一体誰に報告すればいいんです？

藍原

院長に聞いてください。

涼子

院長はどこに？

藍原

ナースステーションで訊ねてください。

涼子

ナースステーション？

藍原

厄介な人ですね？ あなたは。

涼子

いやいや、七十年前にナースステーションなんてあった？ しかも、敵国の言

葉でしょ？

藍原

そうか……駅？ 看護婦の駅？ あれ？

貴子

いや、ここは、ハブ港。ハブよ、ハブ。

涼子

ハブ？ ここは沖繩なの？

貴子

え？ 私たちは乗り込む船を待っている。私たち看護婦は負傷兵を看護するた

め、南海の海に出帆するんですよ？ ここはハブ港なんですよ？ もう沖繩ま

で来てしまったの？

涼子

負傷兵？ 違うわ。あたしたちが救いに行くのは、島の子供たち。難民の子供

たちよ。あたしたちはピンカラ島を目指してる。ピンカラ島の子供たちを本土

に送り届ける使命があるのよ。

貴子

ダニエル神父を呼びましょう。

神父（公男）、田中と高橋を連れて現れる。

貴子 神父さん、金城さんが興奮してしまつて。

公男 船が到着しましたよ。金城さん、もうすぐです。

涼子 本当に……

公男 子供たちを救い出すのです。

涼子 でも神父さん、朝日が昇れば、みんな処刑されてしまう。早く助けに行かないと、あの子たちはみんな……。きっと今頃あの子たちは、自分たちが殺された後に埋められる墓穴を掘らされている。それがなんなのか知らされないまま。無邪気にスコップで大きな穴を掘らされているんだわ。

公男 急ぐんです。日が昇らぬうちに。

涼子 無理だわ。無理です。島に到着しないうちに、朝日は昇ってしまうでしょう。太陽に追いつかれないように、まず南に東シナ海を抜け、インド洋を通り、スエズ運河を通過し、アフリカ大陸の上の地中海を通り、ジブラルタル海峡を抜け、大西洋を通り、アメリカ大陸のキューバの下、パナマ運河を通り、太平洋を進むんです。すると日が沈まぬうちにピンカラ島に到着できます。

涼子 ……

公男 大丈夫です。地球は丸いんです。

貴子

あの、どれくらいのスピードで？

公男

そりゃ、一日で地球一周するくらいのスピードですよ。

貴子

というと？

公男

時速一六六〇キロメートル。飛行機の二倍の速度です。

藍原

もつと死ぬ気でやってよ。

公男

もう限界ですよ。僕なりに精いっぱいやっています。

藍原

もう時間がないのよ。

公男

上演日はつきり決めてないんですよ？ 何を焦ってるんです？

藍原

だから焦ってるの。みんながああ四十年前の舞台稽古のテンションを取り戻して、お客様に恥ずかしくない作品を創り上げる時間と出演者の健康寿命との戦いなよ。

佐々木

田中さんなんか瀕死状態ですものね。

藍原

一時間も稽古したら、みんなすぐに横になりたがるし。

一同、ベッドに横になる。

貴子

誰も寝てはならぬ。

一同

ええ？

貴子

明け方までに彼の本当の名前が分からなければ、この街に住む者は誰もかれもが殺されてしまうでしょう。

一同

えええ？

貴子

神父様祈りを捧げてください。船が訪れるまで、祈りを。

涼子

どうしてよ。

貴子

ええ？

涼子

今、難民の子供たちが処刑されるかもしれないって話だったでしょう？

貴子

でもホラ、この台本に書いてあるんだもの。

佐々木

汚い字だなあ……ガリ版刷りってやつですね。

涼子

あたしやっぱり、こういうの、アングラみたいなの、向かないんだと思う。や

ってらんないわよもう。

貴子

ちようど四十年前だから、こういうの流行ってたのよね。時空が飛ぶやつ。

涼子

あたしは普通のリアルなのが良いやっぱり。

藍原

四十年前はみんな必死だったじゃないの。あの頃は、生魚加えて踊ったり、頭

を安全カミソリで切り刻んだりするパフォーマンスが流行った時代。ほとんど

の演劇人はヘビースモーカーで、映画館ではタバコ吸いながらワンカップ大関

を飲むのが主流だった。

佐々木

信じられない。それ日本の話ですか？

涼子

この彼の名前って、彼って誰なの？

藍原

この船をチャーターしてくれた大金持ちの財閥の令嬢にプロポーズした将校よ。

涼子

そんな人出てきた？

藍原

これから出てくるのよ。ほら。

と、ページを繰る。

涼子

分かんない、あたし本当に分かんない。

貴子

ここさ、線引いてあるけど、書き直そうとしてたんじゃないのかな……

藍原

え？

貴子

ホラ。

藍原

推敲した原稿は彼が持つてるしね。ある程度こっちで想像してやらないと。

貴子

あの日も藍原さん、同じこと言ったね。四十年前、あとはあたしたちで想像してやらないと、って。でもどうして、あの時上演しなかったんだろう。みんな

必死で徹夜して台詞も覚えて、道具も作り終えたのに。

涼子

あたしが嫌だって言ったのかな……。今みたいに、こんなのがやってられないって。

貴子

涼子さんはやる気満々だったわよ。この役は劇団内オーディションで決めただもの。難民の子供たちを救えると思いついて狂った看護師。戦時中、満州の野戦病院に勤務し、引き揚げ船氷川丸にも乗り込んで、多くの負傷者たちを介護し、白衣の天使と謳われた伝説の看護師金城真理が、満州で二万人の死にゆく兵士たちを看取り、焼かれた子供たちの遺体を埋める作業をしているうちに精神を病み、自ら精神病院に入院している患者だということさえ忘れ、老婆になっても同じ病室の患者たちを看護する。みんなやりたかったわよ。あたしもやりたかった、狂った役。

藍原

なんでみんなあんなにやりたかったのかなあ……狂った役。解放されたかったんでしょね。

美代子

貴子

え？

美代子

男社会の中で封印され続けてきた精神を解放して、淫らに、自由になりたかった。

絵夢

美代子さん。

美代子

あたしなんか、子供だけが生きがいで、子供のためだけに働いてますからね。自分がやりたかったことなんて、もう忘れちゃったというか、とにかく余裕がなくて、二、三時間しか夜も寝ないで働いてるもんだから、心がなくなっていくんですよ。そこに変わりもんのおばあちゃんの厄介な介護まで入っちゃって、

涼子

貴子

藍原

公男

藍原

公男

藍原

公男

藍原

公男

美代子

貴子

絵夢

死んでくれたらって何度も思いましたよ。でも、あたしと同じように子育て中心で自分の暮らしを犠牲にしてきたんだとばかり思っていたおばあちゃんが、演劇やってたなんて……。一本とられたな、って感じかな……。それが、嬉しいみたいな不思議な感覚。……。狂ってみたいです。私も。

あたし、オーディションで勝ち取ったんだ、この役。

そうよ。あたし落ちたんだもの。

あたしも落ちた。

母さんは？

勿論落ちた。台詞全部入ってたの、生子だけだったのに。

可哀想に。

ダニエル神父の役だったってかなりいい役ですよ。最後に金城真理を看取り、子供たちを救う大事な役です。

えええ、この役は母さんの役だったの？

だからあなたに頼んだのですよ。息子のあなたに。

知らなかった。

おばあちゃんは男役だったんですか。

なぜか多かったね。男優が少なかったから。

でもこの台本変ですね。ところどころ余白があつて「ご自由にどうぞ」って書

き込んであるけど。

藍原 あ頃は即興芝居が流行ってたのよ。その箇所は稽古場で役者が作ってくの。もう大変過ぎて、生子なんか頭の後ろ剥げちゃって。

貴子 神経禿。円形脱毛症？

佐々木 そこまでしてやるもんなんですか、演劇って。

藍原 やったねえ。みんな。

絵夢 ……このピンカラ島っていうのは、あの子供たちの消えた伝説の島のことですか？

藍原 そう、生きているのか？ 死んでいるのか？ 戦後、島民たちが消えた島。長い間戦勝国の物になり、ついに返還されなかった幻の島。霧宮は消えてしまった子供たちを救いたかったんだと思う。金城真理の狂った頭を使ってこの国に住ませ、飢餓から救いたかった。

涼子 ああ……子供たちの歌が聴こえる……早く子供たちを助け出さなければ……

藍原 ごめん、藍原さん、この後がどうしても思い出せない。

貴子 ……

藍原 どうしたの？

絵夢 これは……

藍原

ええ？

公男

破ってある。この台本。

美代子

なんでみんな気が付かなかったの？ 思い出せないはずよ。この先の台本が切れてんだもの。

藍原

そんなはずないよ。四十年前、みんな覚えてたはずよ。

美代子

うん、破られたのは最近ね。この断面からいって。

貴子

本村さん、あなた。

良子

ええ。私が破りました。私が破って捨ててしまいました。

一同

……

良子

認知症の患者が認知症の患者の芝居を上演するなんて。

絵夢

ええ？

良子

かつて、認知症の患者は精神病院に送られていました。この台本は認知症の患者たちが精神病の患者たちと同室になって、妄想の中で国境を越え、島で孤立した戦争孤児たちを救い出すという、構成になっています。しかも、自分たちはその犠牲になって死んでいくんです。妄想の犠牲となって。四十年前、健常者が演じたのであれば、この社会に一石を投じる作品になったのかもしれない。しかし、本物の認知症の方たちにそんな作品を演じさせる訳に行かないじゃないですか。全員が死に至る芝居なんか。

貴子 そんな芝居だったかな……

良子 ええ。

絵夢 間違いないですか？

良子 私は全部読みましたから、皆さんが寝静まった後に。

一同 ……

涼子 どうしよう……みんな忘れちゃった。

絵夢 私が書きましょう。

一同 ええ？

絵夢 上演は三月三日のひな祭り。私が書きますから、先生が演出して下さい。

公男 姉ちゃん、三日しかないんだろう？ 休み。

絵夢 皆さんに演じていただきながら書き留めていけばいいんだから。すぐにできま
すよ。

美代子 お義姉さん……

絵夢 なに？

美代子 なんでもないです。

絵夢 美代子さんにも出演して貰いますよ。

美代子 ……まあ……台詞あります？

絵夢 唾の美少女と、出ずっぱりで台詞の多い禿親父役とではどっちが良いですか？

美代子

出ずっぱりのお親父。

絵夢

分かりました。

と、絵夢、どこか個室に入っていく。

美代子

公男さん、あたし、なんかドキドキする。

公男

大丈夫かな姉さん。そして、おばあちゃんは本当にやれるんだろうか？ ダニ

エル神父。

絵夢、介護施設の別の部屋に入っていく。

夥しい管につながれて拘束された太った老女が見える。

透明な繭の中にも見える。

その老女のベッドの周りに四つのベッドが立っている。

病室を俯瞰したイメージ。

老女

ちよつとはずしてよ。

絵夢

ええ？

老女

ちよこつと、このチューブ。ここからちよいとひっこぬいてくれればよいから

さ。ここんどこ、ここんどこ。ね？

でもこれって延命治療の管なんでしょ？ 勝手に引っこ抜いたら、死んじゃいますよ。

でも気持ち悪いんだよ。痛いんだよ。助けると思ってたさ。これじゃ、娘のために、歌ったり踊ったりできないじゃないか。

娘のためって、貴方はだれなんですか？

母です。

誰の？

みんなの。早く、引っこ抜いちゃって。

絵夢、抜こうとする。

良子

ダメですよ。死にますよ。

絵夢

ええ？

老女

ばれたか。

絵夢

ええ？

老女

もう死んじゃいたくて。やだよ。もうこんなの。

絵夢

ええ？

良子

この施設が出来てからずっとこのベッドに横たわり、もう四十年。身内の方ももうどなたもいらつしやいません。延命治療の中断には肉親の許可が必要ですから、このまま、心肺が停止するまで、この姿で生き続けることになります。ここは介護施設ですよね？

良子

ええ。大本は病院です。そこに介護施設が併設されているので、二十四時間体制で医師による診察も可能です。この階の個室にはこういった患者たちが入院しているのです。

絵夢

あなたは看護師の免許も持ってるんですか？

良子

ええ、一応は。

絵夢

この人は、眠っているのですか？

良子

ええ？

絵夢

なんだか寝言のようでした。

貴子

四つのベッドの一つから、貴子、現れる。
隠れる絵夢。

ママ……やけに塩っ辛い味付けのお弁当、ありがとう。裏返しに着せられた運動会のブルーマー、ありがとう。不器用でおおざっぱ。でも毎日田舎の映画館

に連れて行ってくれたね。あたしは自分のパパはフレッド・アステアだと思
込んでたよ。ママの言うこといちいち信じてたからね。忙しいパパとは絶対会
えない。だから、結婚するなら夫婦が毎日顔合わせて一緒にやれる仕事が良い
と思ってた。……舞台の夢にだけは拘って贅沢させてくれたママ、ごめんね。
ママの夢を叶えてあげられなくて。……ごめんね……愛せなくて……

と、独り言のように繭の周りの空間につぶやく。

と、他のベッドから涼子も現れる。

涼子

お母ちゃん、あれからずっと待ってたけど、迎えに来てくれへんかったね。仕
送りの途絶えて、あたし、弟と妹三人も抱えて、大変やったで。高校卒業して
お母ちゃん探しに大阪に出た。スナックでバイトしたら高級クラブの舞台上で
踊るダンサーにスカウトされてな。歌って踊っているうちにお客の演劇プロデ
ューサーの目に留まって、本格的なレッスンを受けることになった。貴子ちゃ
んとちごて、あたしは女優になりたいなんて、一回も思たことないまま何百回
も舞台に立ってた。あたしはただ、お母ちゃん探してただけやったんや。

別のベッドから藍原も現れる。

藍原

顔も忘れちゃったよ。あんた思い出すとイライラする。男無しで生きていけない女なんて最低。あんたみたいな女がいるから、真面目な女がコツコツ努力しても報われないんだよ。馬鹿野郎。……だけど、会いたい……悔しいけど会いたい……。男と女は嫌いになったら離婚できる、離婚したらもう他人。二度と会えなくても平気。でも、でも、母ちゃんは、母ちゃん、オラの母ちゃん。

生子も起き上がって、

生子

オラの母ちゃんは、未亡人会会長。軍人の妻だった……父ちゃんが馬に乗った写真あるよ。母ちゃんの写真はあまりない。

繭の中の老女、うなされている。

介護士の一人、ギターをつま弾き、老女、突然歌いだす。

ロックなのかシャンソンなのか？ 七十年代の懐かしい曲風。

曲は先程のミュージカルの中の曲のアレンジ。

看護師姿の良子が真面目な顔で踊っている。

他の介護士と看護師も目隠しをして踊る。

老女

へ好きだ愛してる でも事情がある

理屈じゃない かといって感情だけでもない

ああ ご飯食べてるか 薄着していないか

元気でいて 身体が心配

何があっても私は許す 何でも許す

許す 許す 許す 許す 許されなくても

—間奏—

何があっても私は許す 何でも許す

許す 許す 許す 許す 許されなくても

老女、目隠しをした看護師たちに、また拘束される。

場面は元の介護施設のロビーに変わる。

絵夢がノートを持ってイライラしながら鉛筆をかじっている。

タバコを我慢しているのだ。

生子、粘土を持っている。

絵夢
行き詰ってきたぞ。簡単に書けるはずが、書けないじゃないか……

介護士たち、台本を持って集まっている。

絵夢
では北海道出身、イグアナを凍らせた男から。

鈴木
座礁したぞ！ みんな甲板に上がるんだ。島はもう目の前。ボートを出して、身軽なものから飛び降りるんだ。

絵夢
では沖縄出身、暖房をつけると必ず居眠りする男。

喜屋武
座礁したぞ。みんな甲板に上がるんだ。島はもう目の前。ボートを出して、身軽なものから飛び乗るんだ。早く、ボートを！

藍原
ちよつと待って、ボートつて何、ええ？ ボートはどこにあるの？ 今はまだないでしょ？ 何で、ボートがそこにあるような演技するの？

絵夢
まあまあ、きつく言っても萎縮するだけだから。次行きましょう。

藍原
何よ、急に冷静なトーンになっちゃって。

貴子
まあまあ、藍原さん、折れることも必要よ。みんなそれぞれやり方があるんだから。

美代子

客商売やってた人は違うわね。

貴子

折れた、折れたの人生で。

絵夢

次の人。

介護士たち、我も我もとオーディションを受ける。

次の万田の台詞は、女性も含めて、同時に喋る。

万田

身軽な人。身軽な人はいませんか？ ええ？ 分からない？ やってみればいいじゃないですか。

森

そうそう、飛び乗ってみて下さいよ。

村川

飛び乗ってみれば身軽かどうか分かりますから。

真由美

ええ？ 海に落ちたらどうするって？

和子

ひとまず飛んで下さいよ。

良子

みんな年寄りだから、ひとまずつてのには無理がある？ そうかなあ……

藍原

みんな分かっているのかな？ ここはもつと切実なシーンなのよ。子供たちを助けようと向かった私たちの病院船が座礁してしまった。狂っているとはいえ、看護師たちと年老いた患者たちは怪我や病気で苦しんでいる子供たちを早く助け出したいと思っている。私たちが助からなければ子供たちも助からない。

しかし、逆巻く高波に臆し、震える患者たち。あなたたち、老婆たちを助けた
いんでしよう。死なせたくないでしよう。ちゃんと誘導してよ。

貴子

藍原さん。

藍原

今回ばかりは折れてなんかいられませんよ。私たちには時間がないんです。今の私たちにも、戯曲の中の子供たちにも。

絵夢

次の人。

佐々木

みんな年寄りだからひとまずつてのには無理があるだつて？ そんなこと言
つてる場合か。飛ぶんだよ。つべこべいってないで飛び乗れ！ 分かってんのか！
死んじまうんだぞ！ 火事場の馬鹿力で乗り切るんだ！ ほうらでき
たじゃないか。

介護士たち

全員乗ってるな？ 船が沈むぞ！ あ、ダニエル神父。何してるんですか。早く
こちらに。船が沈んでしまいます。

美代子

ブルーホエール。僕はその時、まるでシロナガスクジラのようにでかい、その
伝説の潜水艦がこちらに向かって悠々と姿を現すのを見たんです。（なぜか禿
親父のカツラをかぶっている）

絵夢

ちよつと待って！ 藍原さん、この僕っていうのは誰なんですか？

藍原

霧宮さんです。霧宮昇が演じることになっていた医師、室塚です。

絵夢

そういう大事なことは早く言って下さいね。ではあなたは、さつきから霧宮昇

藍原

の代役を演じていたんですか。

そう……私は演出助手でしたから、稽古場でも、霧宮の代役を演じていたんです。狂った看護師金城真理を陰で支える、真理の恋人でもある室塚は、真理自身というより、真理の狂気に恋していたのです。真理の妄想を通して、あの時代の真実を探ろうとしていた。

絵夢

時代を変えたジャンヌ・ダルクのように……つまり真理のギリギリの狂気こそが室塚にとって、時代の真実を映す存在として必要だったと。

公男

まさか母ちゃんが子育てしながらそんな世界で格闘していたなんて……

と、美代子、カツラを取り、黒い帽子をかぶる。

美代子、そばで書いていた絵夢の台本を取り上げて演じる。

美代子

ブルーホエール。僕はその時、まるでシロナガスクジラのようにでかい、その伝説の潜水艦がこちらに向かって悠々と姿を現すのを見たんです。その潜水艦の背には子供たちが必死にしがみついています。「ブルーホエール」国境なき潜水艦。この時代の人々なら誰でも、その青黒い、鯨に似た光る鉄の肌を、一度はこの目で見たいとあこがれていたものです。僕はその光景を焼き付けようと必死でした。ブルーホエール、もつとこちらにもつとこちらに、僕のこの

手に、この手に。

公男

金城さん、あれが青い鯨だ。鯨はやっぱりこの海を泳いでいたんです。いつの時代でも、どんな時でも助けを求める小さきものに手を差し伸べる大きくて柔らかい力は悠々と海原を泳ぎ、潜伏し、目覚める時を待っていたんです。思う人がいれは必ず現れる、そんな優しい力なんです。

介護士たち

神父様早く。早く、こちらに。

涼子

ああ、子供たちがみんな乗り込んでいく。

美代子

助かったぞ。子供たちがみんな。

シロナガスクジラの声がする。

美代子

ダニエル神父、見てください。子供たちがみんな笑ってる。

涼子

ここですわ。写真を撮るのは。みなさん、今、この時ですわよ。さあ、今、今ですわ。

絵夢、書き換える。

涼子

助けに来た私たちよりもっともっと大きな力を、この「ブルーホーエール」は

一同

子供たちに与えました。あきらめないということ、そして信じること。この国境なき潜水艦がいつの時代も名もなき子供たちを救ってくれるということ。私たちは目の当たりにした。私たちも乗り込みましょう。

ええ。

涼子

さあ、早く。

美代子

ダニエル神父……

神父

行きなさい、早く……そのボートには制限がある。私は静かにここに残ります。

涼子

沈みゆくこの船とともに天に召されましょう。

神父

なんとということ。

私には信仰がある。死は怖くはありません。星々の中に、あの千の目の中の一つとして私はあなた方を見守っていきます。さようなら、ありがとう。……母ちゃん……

生子

公男、そこで母ちゃんはダメだよ。神父には家族もなければ、プライベートもないんだから。

絵夢、書き直す。

神父

ええ、私はあの空の星々の中に……

生子

私には怖いものではありません。私が、あなたたちと、あの、黄色い、黒い、白い、小さき子供らの犠牲になって死んでいくのだとは思わないでください。私のこの命は、人類が繰り返してきた果てのない命の連鎖の小さな一粒でしかない。その一粒が未来の子供たちのえくぼのひとつとなり、雪解け水の上を吹く春の匂いのする風となり、あの夜の空に輝く千の目のひとつとなり、私はあなた方を見守りましょう。

芝居の稽古は終わる。

一同、ベッドに眠る。

絵夢、生子の作ったミニチュアの棚田を見つめる。

そしてそれを生子のベッドのそばに置く。

ヘルパーの貴子が涼子の世話をしている。

静かな時間。藍原もベッドに眠っている。

貴子

あたし、最後まで涼子さんといられて本当に良かった。最後までこうしてあなたの面倒が看られて光栄です。ヘルパーの仕事も付き人に比べたら本当に楽ち

ん。訓練の賜物ですね。私、いつの間にか自分が演じることよりも、あなたのお世話をしていることの方に生きがいを感じちゃって……芝居を観ても、映画を観ても、ついついあなたなら何て思うだろうって考えちゃうんですよ。一人で食事していてもあなたならこりやまずいって言うだろうとかね。夫が亡くなってもあんまり寂しさは感じなかった……あなたがこうして物を言わなくなってしまうた寂しさの方が私にはつらい……

涼子、微笑んだまま。

貴子

何かわがまま言って欲しいなあ……間が悪いよとか、声が小さいとか……今じゃないだろ、それは。とかさ……

と、涼子をベッドに寝かしつけドアから去っていく。

絵夢はベッドでつい居眠り。

奥の扉が開いて雪が降っている。

藍原、起き上がって絵を描こうとする。

若い霧宮が黒いオーバーコートを着込んで帽子をかぶり立っている……

藍原

……霧宮さん……

霧宮

藍原君、剣山岬に行ってみたよ。君が見たという青い鯨のことが気になってね。逆巻く波の向こうには、小さく薄い灰色のピンカラ島の窪んだ死火山に積もった雪が見えた。藍原君、僕は君に嘘を付いていた。消えたあの子供たちはもう生きてはいない。夏にあの島まで泳いで行って分かったのさ。海岸線に小さな子供たちの骨が、夥しい数の骨が打ち上げられていた。逃げ遅れたのだろうか？ それとも敵兵に打たれたのか……もう誰も人の気配のしない無人の島に一輪の時計草が咲いていた。君が昔好きだと言っていた時計草。時計の生きた標本のような、あの花だ。君が夢想する時、あの花が目の奥で矢車のように回るのだと言っていたね。僕はもうだめだ……火炎瓶にやられて難聴になったこの左耳に子供たちの歌が聴こえてくるんだ……。僕はね藍原君。あの島の出身なんだ。子供の頃、泳いでね、通りがかりの貨物船に拾われた。あの島からこちらに渡ることのできた、ただ一人の人間だった。

藍原

霧宮さん。

霧宮

さようなら。藍原君。僕は帰るよ、あの島に。……君の二つの世界のどちらにか、僕は住むことになる。

藍原

霧宮さん。

霧宮

だから僕は年を取らない。

と、霧宮、雪の中に向かっていく。
雪の中に去る霧宮と藍原を見る絵夢。

絵夢

命を費やして叶わず、夢破れて筆を折らざるを得なかった劇作家は、どうして人間の奥底の泡立つ感情を信じなかったのでしょうか。現実が暗くて重たい逆さの剣山でも、書き記す言葉は嘘でも喋れば本当になる。そこに人間がいる限り喋れば本当になるんです。私は、あなたたちを殺しません。突然子供のまま生まれ、そして突然に子供のままに焼かれる人形になってしまった不可解な認知症患者のあなたたちに、私は毒のように黒い友情を感じざるを得ない。だってあなたたちは私なんですから。私は書きます。私は霧宮さんの時計草をこの手で折り、あなたたちの時間を止めて、死ねない体にしてしまいます。霧宮さんがあなたたちを捨てて等身大の歴史の彼方に消えたのだとしても、わたしはあきらめません。大きな鯨の背に乗り大笑いする子供たちの皮膚。その笑顔を見れば幸せになる貴方たちのしわを私は今、書きます。

と、生子を見つめ、別の場所へ立ち去る。現実という名の書齋へ。

一心不乱に何か作っている生子。今まで出てきたミニチュアの道具である。

生子を優しく見つめていた藍原、思い立ってどこかへ消える。

乙女 おばあちゃん、何作ってるの？

生子 思い出……

乙女 おばあちゃん、幸せ？

生子 ああ？

乙女 し、あ、わ、せ？

生子 しわ。

と、自分の手の甲を見せる。

乙女 しわ……

生子 こっちはつるつるだよ。

と、手をひっくり返して手のひらを見せる。

乙女 うん。

生子 暗い顔すんな。

乙女

え？

生子

暗いブスは漬物石にもならない。母ちゃんに良く言われたよ。笑ってな。

乙女

……うん。

生子

父ちゃんは戦死して、おじちゃんたちはやつと帰ってきたのに栄養失調で死んだんだ。母ちゃんたった一人で三人の子供を育ててさ……女の幸せには縁がなかったって言ってたなあ……女の幸せってなんなの？ どう思うあんたは。

乙女

……女の幸せ？ 人間の幸せとは別なもの？

生子

分からん。いのち短し、恋せよ乙女。この歌詞だって男が作ったんだよ。女の幸せなんて男の妄想だよ。

乙女

そうなの？

生子

じゃあ、男の幸せってなんだ？

乙女

男じゃないから分からないよ。

生子

だろ？ もともと幸せって奴は男のためにしかなかったんじゃないだろか？

乙女

男を支えるのが女の幸せだって、言うんだろ？ 男は。何か賞とか貰ったときになさ、テレビのインタビューで「支えてくれた妻に感謝します」ってほとんどおじいさんが言うだろ？ 女自身が幸せになることなんか、昔は誰も考えてくれなかったんだなあ。考えてもらえないまま、黙って死ぬのが女だなあ。そうなの？

生子

あんたは違うよ。あたしのこと。

乙女

死なないよね。おばあちゃん。

生子

死んじやうよ。人間死ぬために生きるんだから。人間は死ぬるんだよ。凄いよ。

死ねなきゃ辛くて生きていけないよ。

乙女

……

生子

だから頑張んな。いつか死ぬるんだから。それまで頑張んな。

乙女

うん。

生子

ほら。きれいだろ。(と作ったクジラのミニチュアを見せる)

乙女

うん。(と生子の作った柵田の全体を見る)

生子

人が作ったものの方が、自然なものより綺麗なんだよ。

乙女

ほんとだ。

生子

心が入るからね。自然のものには心がない。だから綺麗だつて言う人もいるけど、あたしはそうは思わない。心が入らなきゃダメだね。何でも。

でもそれって疲れるね。

乙女

ああ、疲れるさ。そこがまた良いんだ。

生子

……(と暗い顔)

乙女

……(と暗い顔)

生子

笑ってる。

乙女

うん。(と、笑う)

一瞬、高い空間に子供の佐和子が見える。

と、セーラー服の老嬢、現実の佐和子が出てくる。

出だしのシーンを大人の生子と佐和子が演じる。驚く乙女。

生子のいとこのサワが息せき切って走ってくる。身振り手振りで、今見てきたものの状態を生子に示しているが、興奮しすぎていて理解できない？ サ

ワはメガネを掛けている。

生子、思いついたことを尋ねてみるが当たらない。

生子

何なのさ。何よ、サワちゃん。

サワ

せいちゃん、凄いや、凄いや、早く、早く。

生子

どうしたの？

サワ

早く行かないと、行っちゃうよ。

生子

何が？

サワ

いいから早く。

生子

ここで母ちゃん、待ってなきやなんないんだよ。

サワ

見たくないの？

生子

何を。

サワ

鯨だよ。

生子

ええ？

サワ

初めて見た……あんな大きな鯨……市民会館よりでつかい鯨が腹出してあたしにさ、せいちゃん連れて来いって言うんだ。

行きかけた生子、戻ってくる。

生子

なんだ……嘘つき。

サワ

ええ？

生子

鯨がそんなこと言うもんか、嘘つき。

サワ

ばか。違うよ。そんな風に言ってる気がしたんだよ。「早く生子を連れて来てオラを生子さ見せる。町の鯨博士生子様にこのオラの雄姿を早く見せる」ってよ。いいから早く。

生子

マッコウクジラか、ザトウクジラか？ 市民会館ほどの、そんなにでつかい鯨なら、シロナガスだろ？ こんな日本の東北地方にシロナガスクジラが来るわけない。そんな遠い外国の鯨が、こんなところに来るはずがないよ。サワちゃん、それは蜃気楼だな。

サワ

鯨の背に乗った子供たちは？ ピンカラ島の難民の子供たちじゃないのか

生子
い？
サワちゃんはあたしより年上なのにいつも子供じみたことばかり言うから参ったなあ……早く大人になってくれよ。
サワ
早く行かないと鯨が行っちゃうよ。

二人、手を繋いで走って行こうとする。
と、生子の母、鶴子が農作業の姿で息せき切ってくる。

鶴子
生子！

あ、母ちゃん。

どさいぐんだ。

鯨見に。

いつの時代の話してるのだ。

今だよ。今、剣山岬でサワちゃんが見たんだよ。

この気違い。あっちゃんげ。おめえは小学校の時に人事不省さ陥って、二年遅れて入りなおしたんだ。その時の秘密をおばちゃんがしゃねど思てんのが？

サワ
……………

鶴子
あの時からおめえは、二つの世界ば行き来してる。現実と妄想の二つの世界ばな。

サワ

私はこういう性格だからはっきり言うが、そんな病気と今後でも戦っていくのはおめ一人。オラの生子を連れて行ってはなんね。一人で行け。

鯨はほんといにるんだよ。剣山岬から鷹の目島の手前に渦巻く波のあなたに光る青い背。市民会館の屋根みたいに光る青い皮膚。一度大きく潜ったかと思うと、突然波しぶきを上げて私のすぐそばで躍るようにジャンプした。その白い腹の美しさと言ったら……ああ、今もまだ鳥肌が立っている。綺麗な白い腹を見せて私を誘うようにジャンプしたその背には、見たこともないような異国の子供たちが乗っていた。

絵夢が、生子の作った飛び出す絵本を開くと、小さな鯨が現れる。

と、天井から、生子の作ったミニチュアの鯨が巨大化して現れる。

目を見張る乙女。

公男、美代子は気が付かずミニチュアを見ている。

ベッドの中の劇団員たち、鯨をその手に乗せようと起き上がる。

生子、佐和子とともに、白い腹を見せて躍るシロナガスクジラを見つめ微笑んでいる。